

## 全日本剣道演武大会と京都武徳殿

第 103 回全日本剣道演武大会が、5 月 2 日から 5 日までの 4 日間の日程で京都の武徳殿で開催された。今年の演武大会への参加人数は剣道が 2070 余名、居合道が 730 余名であった。

秋田県からは剣道に 6 名、居合道に 9 名がそれぞれ参加し、一年間の自己の修練の成果を試すべく、立会いにのぞんだ。

### ●大日本武徳会の設立と京都武徳殿について

明治 27 年、日清戦争が勃発すると武道振興の必要性が急激に唱えられるようになり、そうした社会背景の中で、当時の京都の政官界、実業界の主要メンバーが集まり、大日本武徳会が設立された。

初代総裁は小松宮彰仁親王、初代会長には京都府知事の渡辺千秋が就任した。当初は、天皇の行幸に合わせた天覧試合の開催が目的の団体であった。

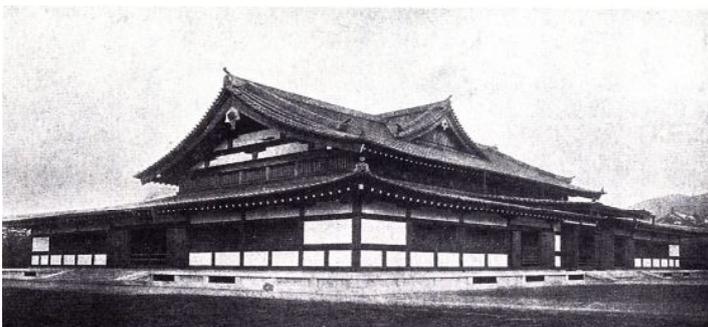
剣道演武大会は、明治 28 年の大日本武徳会創立直後から開催され、現在の武徳殿が造営される前は平安神宮前に仮道場を設置して開催されたという。その後、明治 32 年の第 4 回大会から現在の武徳殿が完成したことによって主会場となり、第二次大戦中と戦後の 10 年間の空白期間を除き、毎年実施されてきたものである。

### ●鳥海弘樹（大日本武徳会幹事長）について

大日本武徳会設立の中心人物が本県出身の鳥海弘樹である。彼は 1849 年（嘉永 3 年）、岩城町亀田（現由利本庄市）に士族加藤権九郎の二男として生まれた。明治 2 年に大学南校（東京大学の前身）に入学した。明治 6 年には加藤の姓を故郷の山である鳥海山に思いをはせて鳥海と改めた。大蔵省の役人として官僚生活をスタートし、後に京都府税務管理局長になった。この時期に大日本武徳会の創立者の一人として大日本武徳会幹事長を務めた。彼は、小野派一刀流、日置流弓術、大坪流馬術にすぐれた武道家でもあった。1914 年（大正 3 年）京都府で没している。由利本庄市では「鳥海弘樹顕彰剣道大会」が毎年開催されており、平成 19 年度で第 47 回目を迎えている。

上記したとおり、全日本剣道演武大会は、秋田県関係者にとっても縁とゆかりの深い大会である。剣道を愛好する方々が一人でも多く、新緑のころの京都に足を運び、この大会に参加して欲しいと願っている。

京都武徳殿



鳥海弘樹

